80th
KURUME UNIVERSITY SINCE 1928
久留米大学は2008年に創立80周年を迎えます。

Kurume University Medical Center

久留米大学医療センター News

2008.04
No.007

私たちの理念

心が通い、信頼される医療

私たちのめざす医療

1. 皆さまの権利とプライバシーを尊重します。
2. 充分な説明と同意のもとに、最新で安全な医療を行います。
3. 地域に開かれた病院として、健康と福祉の向上に努めます。
4. 確かな医療技術と豊かな人間性を備えた医療人を育てます。

〈久留米大学医療センターホームページ〉

http://iryo.kurume-u.ac.jp/

Contents

- 病院長就任挨拶
- 病児保育施設“エンゼルキッズ”ご案内
- 診療科紹介（耳鼻咽喉科・皮膚科）
- 新任医師紹介
- なぜなに！？嚥下☆（第３回）
- 診療体制の変更と創立記念日の開院について

久留米大学医療センター　〒839-0863　福岡県久留米市国分町155-1　TEL 0942-22-6111㈹

病院長就任挨拶

４月より医療センター病院長を命じられた伊藤雄平と申します。
本職は小児科医です。

医療センターは昨年、新築の病院に一新しました。今まで冬には寒く、夏には熱い病院で、患者様にはご不便ばかりおかけしておりました。現在の建物は内部の快適さだけでなく、敷地全体が広々とした緑に囲まれた癒しの空間となっており、ハード面ではかなりの改善ができたと思っております。

さて、ハードが整った医療センターのこれからは……？

「チーム　医療センター」として患者様のニーズに応え、地域の付託に応えられるようにソフト面の充実をはかります。職員が意識改革を行い、一丸となって“癒しのチーム医療”を目指します。チーム医療とはスポーツで言えば、相撲でなくてサッカーもしくは野球です。職員一人一人のレベルアップがチーム力のアップにつながります。特に現場では、充分で解り易い説明、医療人として必須の“細やかな配慮”などを徹底したいと思っています。患者様からの声ももっともっと反映できるようなシステムも考えたいと思います。

ニュースでは毎日のように医師不足や救急患者の応需先がなく救急車の中での急変なども報道されています。幸いにも当センターは久留米大学の一員として医学部や久留米大学病院のバックアップを受けています。しかし、様々な面で医療センターも厳しい状況にあることは間違いありません。例えば、４月からは産婦人科が地域医療の再編により外来診療だけになります。その反面、うれしいお知らせもあります。ご不自由をかけておりました泌尿器科は２名の医師が常勤医となって赴任し、手術も開始されます。麻酔科はペインクリニックの外来充実とともに患者様が増加しております。その他、４月からは外科の責任医師の交代、眼科の常勤医１名追加など各診療科で様々な変更があります。患者様、紹介医の先生方にはご迷惑をおかけしないよう配慮いたしますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

どのような組織でもコミュニケーションの重要性を言い過ぎる事はありません。コミュニケーションとは双方向の会話、議論です。受診された患者様と医療スタッフ、院内の職域内、院外の紹介医や医師会との意思疎通まで、コミュニケーションを大切にする１年にしたいと思います。絵画を飾ったり、院内でコンサートをすることなど院内の快適さを増すこともコミュニケーションを促すためのサポートになります。

意識改革に最も必要なのは皆様からの忌憚のないご意見、ご鞭撻です。よろしくお願いいたします。

以上、皆様と共生の場としての病院を目指している院長からのメッセージとします。

院内コンサート風景

病児保育施設“エンゼルキッズ”のご案内

久留米大学医療センターは平成２０年４月１日から久留米市より委託され「病児保育」を開始いたしました。

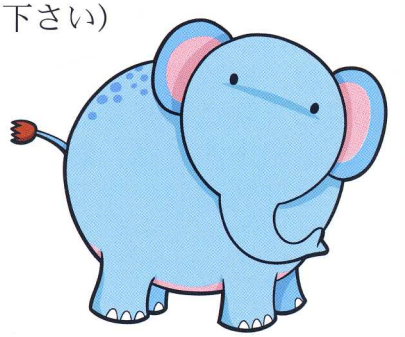
お子様が病気やけがなどで、保育園等に預けることができない期間、保護者がやむをえない事由のため家庭で育児ができない状況にある場合において、一時的にお子様を施設でお預かりして、保護者に代わりに保育・看護を行います。

１．対象者

①久留米市に居住している人
②集団生活が可能な乳幼児（０歳から小学校３年生まで）
③病気及び病気回復期で、医師の診断により、入院その他の専門的かつ濃密な医療は必要ないが、保育所等における日常の保育、集団生活が困難な乳幼児
④保護者の勤務の都合、傷病、事故、出産、冠婚葬祭など社会的にやむを得ない事由により、家庭での保育が困難な乳幼児

２．利用日時

①利用できる日：月曜日～土曜日（日祭日、１２月２９日～１月３日を除く）
②利用時間：７時４５分～１７時４５分（時間内に必ずお迎えに来て下さい）
③利用できる期間：原則として、連続７日間まで



３．利用料金

日額　２，０００円　（寝具等は別途負担）

※お支払いは、お子様を迎えに来られたときに現金にてお願いいたします。

【利用料金の減免対象世帯】
・生活保護世帯、市民税非課税世帯は、２，０００円減免
・所得税非課税世帯は、１，０００円減免

☆減免を希望される方はそれを証明する書類をご持参下さい（認可保育所入所児童のいる世帯は不要）。
・生活保護世帯・・・・・健康保険証
・市民税非課税世帯・・・前年度の市民課税（非課税）証明書

４．スタッフ

常時看護師１名、保育士1名　でお世話をいたします。

５．申込み方法

原則として、利用される日の前日（前日が日祭日で当施設が休みの場合は前の日）までに「エンゼルキッズ」へお申込み下さい。

※事前登録（児童票の提出）をされている方は、はじめてご利用される際、手続きが簡単です。
「病児保育室児童票」は医療センターホームページからもダウンロードできます。

〈〈お申し込み・お問い合わせ〉〉
〒839-0863　福岡県久留米市国分町155-1
久留米大学医療センター内　エンゼルキッズ
TEL/FAX　0942-22-6621（直通）

６．その他

お子様の病気が悪化した場合には、看護師の判断で医療センター小児科外来を受診させます。診療にかかりました費用は、保護者にご負担していただきますので予めご了承下さい。

診療科紹介（耳鼻咽喉科）　菊池　淳

＜外来診療について＞

耳鼻咽喉科一般の疾患を扱います。外来診療日は月～金曜日の午前です。午後は完全予約制で月・水・金曜日に行っています。なお水曜日は手術日で、手術のある時は朝から手術を行い、外来診療を休診としています。また、春・夏休みなどで手術が多いときは、金曜日も手術を行うことがあります。水・金曜日に受診される方は、前もってご確認されることをお勧めします。

再診は原則予約制で行っています。当科では時間予約にしており、なるべく待ち時間が長くならないように努力しています。初診の方は予約できませんが、紹介状持参の方を優先的に診察しています。現在の1日平均外来受診者数は40名前後です。

＜入院診療について＞

耳鼻科の入院棟は3階東で、循環器科と混合です。手術は口腔咽頭手術、鼻・副鼻腔手術、良性頸部腫瘍手術を主に、年間100～120例ほど行っています。ほとんどの手術は全身麻酔で行いますので、術中の苦痛は少なく、従来の「耳鼻科の手術は痛い」というイメージとは、ずいぶん違ってきていると思います。例えば副鼻腔の手術は、内視鏡を用いて鼻内から行っていますので、顔も腫れませんし、術後にしびれが残ることもありません。

なお、病院の施設の関係上、悪性疾患の治療は扱えません。また、急性期疾患を扱うため、療養型の入院はお断りしています。

久留米市内では、睡眠時無呼吸症候群に対して、終夜睡眠ポリグラフ検査の検査入院が行える数少ない病院の一つです。大学病院、睡眠専門歯科医院と連携して治療を行っています。

＜今後について＞

昨今の医療をとりまく状況は、マスコミの報道にもあるように厳しいものです。医療センターの耳鼻科として、今後何ができるのか、どのように地域に貢献できるのか、再検討するべき時期にきています。まずは原点に立ち返って、「診療所で扱える疾患は診療所へ、病院で扱うべき疾患は病院へ」を原則として、地域の医療機関と連携して診療を続けたいと考えています。

新任医師紹介

平成20年４月より多数の医師が新任されましたのでご紹介致します。

外科	准教授	緒方　裕	泌尿器科	助教	名切　信
外科	助教	笹富輝男	小児科	助教	平田留美子
外科	助教	磯邉太郎	麻酔科	助教	橋本宏介
外科	助教	村上英嗣	麻酔科	助教	川﨑英里
循環器科	助教	中村実生	麻酔科	助教	高瀬谷ひかり
循環器科	助教	大野聡子	リハビリ科	助教	篠崎夏子
リウマチ・膠原病センター	助教	松岡昌信	眼科	助教	鎌田理佳
泌尿器科	助教	桃園幸介	産婦人科	臨床教授	園田重則

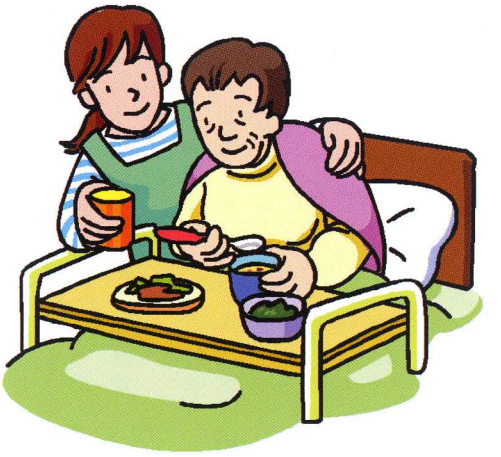
外来診療につきましては、最後のページをご覧下さい。

なぜなに！？嚥下☆Ｑ＆Ａ　（第3回）　　言語聴覚士　大野　裕子

《摂食・嚥下障害が疑われる諸症状》

☆次の症状に心当たりのある方、またはご家族はいらっしゃいませんか？　摂食・嚥下障害の注意信号ですので、ぜひ一度チェックしてみましょう！

1）食事中や食後にむせや咳が多い。
2）食後に声の変化（出にくいなど）がある。
3）喉に違和感や食物の残留感などがある。
4）口に溜め込んでしまい、飲み込めない。
5）肺炎や熱発を繰り返す。
6）脱水や低栄養状態が疑われる。
7）異常な全身の倦怠感がある。
8）拒食や食欲の低下がある。
9）食事時間が１時間近くかかる。
10）食事の好みが変わった。



《今回のポイント》

以上いずれかの症状がしばしばみられる場合は、「嚥下障害あり」の可能性が高いため、病院などでの診察を受け、必要に応じて摂食・嚥下のスクリーニングテストやＶＦ(嚥下造影検査)・VE検査（嚥下内視鏡検査）などの精密検査を受けられることをおすすめ致します。上記の諸症状を繰り返している方は、お早めに病院へご相談下さい。

診療体制の変更と久留米大学創立記念日（４月 28 日）開院について

平成20年4月1日より下記の通り診療体制を一部変更いたしますのでお知らせいたします。

=泌尿器科=
外来診療日　月曜から金曜まで診療いたします。
入院診療　　入院が必要な患者様は当院で入院加療いただけます。

=産婦人科=
外来診療日　月曜から金曜まで診療いたします。
入院診療　　入院が必要な患者様は大学病院などをご紹介いたします。

毎年４月２８日は久留米大学創立記念日につき休診とさせていただいておりましたが、本年は診療を行います。つきましては、ゴールデンウィークも含めた休診日を下記の通りお知らせ致します。

ご来院の際はお気を付けくださいますようお願い致します。

４月２６日（土）	休診	５月１日（木）	診療（通常通り）
４月２７日（日）	休診	５月２日（金）	診療（通常通り）
４月２８日（月）	診療（通常通り）	５月３日（土）	休診（憲法記念日）
４月２９日（火）	休診（昭和の日）	５月４日（日）	休診（みどりの日）
４月３０日（水）	診療（通常通り）	５月５日（月）	休診（こどもの日）
		５月６日（火）	休診（振替休日）
		５月７日（水）	診療（通常通り）

外来診療一覧

平成20年 4 月16日現在

診療科名	月	火	水	木	金
一般内科	工藤まいさ	加藤宏司	中村実生	松岡昌信	村島史朗
呼吸器科（午前）		岩永知秋			
（午後）					松本久美
消化器科	原田和徳 工藤まいさ	田中正俊 村島史朗	原田和徳 由谷茂	田中正俊 工藤まいさ	由谷茂 村島史朗 倉岡圭
循環器科	池田久雄 森田博彦 大野聡子	池田久雄 加藤宏司 大野聡子	池田久雄 加藤宏司 中村実生	加藤宏司 原田晴仁	原田晴仁 森田博彦 中村実生
生活習慣病専門外来（午後のみ）※要予約	池田久雄	池田久雄	池田久雄		
脳神経外科（脳卒中）	村岡範裕	村岡範裕	馬場敦子	村岡範裕	村岡範裕
精神科（午前）	森圭一郎				石井昭洋
（午後）	森田武伯				
小児科	伊藤雄平 吉本悠乃	牛島高介 吉本悠乃	伊藤雄平 吉本悠乃	牛島高介 吉本悠乃	伊藤雄平 牛島高介 吉本悠乃
（専門外来）	腎臓	腎臓 内分泌	腎臓 子育て支援	アトピー 消化器・肝臓	腎臓 小児成人病
外科	緒方裕 村上直孝 笹富輝男	姫野光俊	緒方裕 磯邉太郎	村上英嗣 山口倫	村上直孝
整形外科	樋口富士男 後藤昌史 石橋裕美子	後藤昌史 予約のみ （14時～16時） 仲摩憲次郎	樋口富士男 伊藤伸一	午前休診 後藤昌史 予約のみ （14時～16時）	樋口富士男 ［リハビリ棟↑］ 石橋裕美子 手術により変更あり
リウマチ膠原病センター	福田孝昭 松岡昌信	福田孝昭 本多靖洋	本多靖洋 鮎川竜佑	福田孝昭 矢野真弓	福田孝昭 本多靖洋
リハビリテーション科	松瀬博夫	志波直人	柳東次郎	馬場敦子	篠崎夏子
皮膚科（専門外来）	御厨賢	御厨賢	御厨賢	御厨賢 アトピー外来（予約制）	交代医
泌尿器科	桃園幸介	桃園幸介	名切信	名切信	桃園幸介
産婦人科	園田重則	園田重則	園田重則	園田重則	園田重則
眼科（専門外来）	渡邉志穂 鎌田理佳	渡邉志穂 鎌田理佳	渡邉志穂 鎌田理佳 斜視外来（午前/午後）	渡邉志穂 鎌田理佳 斜視外来（午後のみ）	渡邉志穂
耳鼻咽喉科（特殊診療）	菊池淳	菊池淳	菊池淳	菊池淳	菊池淳 補聴器
放射線科	小島和行 大木詩乃 （画像診断）	小島和行 大木詩乃 （画像診断）	小島和行 大木詩乃 （画像診断）	小島和行 大木詩乃 （画像診断）	小島和行 大木詩乃 （画像診断）
麻酔科	入江将之	入江将之			入江将之

受付時間：午前8時30分～午前11時迄　**診療日**：月～金　**休診日**：土・日・祭日・年末・年始（12／29～1／3）・盆休（8／15）

編集後記

新病院の整備も完了し、4月からは伊藤新病院長を始め、各診療科・診療部門で新しいスタッフでのスタートになりました。診療科によっては大幅なスタッフ交代のため患者様にとまどいやご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが職員一同、病院の理念に恥じぬようがんばりますのでよろしくお願いいたします。

昨年お亡くなりになられた植木等さんが全盛期の頃演じたのが調子のいい無責任社員でした。あの頃の無責任とは口では無責任と言っても仕事は出来るという明るいものだったと記憶しています。最近問題となっているいくつかの行政組織の無責任ぶりにはあきれるばかりですが、翻って他山の石とせず責任感の強い社会人・医療人でありたいものです。　（K）

◎ 企画・発行／久留米大学医療センター　◎ 編集／久留米大学医療センター広報誌委員会